

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370301653		
法人名	有限会社 わかば		
事業所名	うるケアホームふたば 1F		
所在地	名古屋市北区楠三丁目811番地の1		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	令和5年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2370301653-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2370301653-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現状はコロナ禍で地域全体との行事の参加などの連携はあまり取れていないが、自治会長、民生委員、いきいき支援センターとの交流は運営推進会議を通じて、たとえ会議が中止になっても議事録の送付などで交流を続けている。  
特に災害時には支援を頂けるよう 災害名簿を作成し、非常時には助けて頂けるようお願いをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内は、広い空間がつけられていることで、利用者がホーム内の好みの場所で過ごす等、日常生活の中で閉塞感を感じないような配慮が行われている。ホームには身体状態の重い方も可能な限り生活を継続しており、職員間で利用者に関する支援内容の検討を行いながら、一人ひとりに合わせた支援が行われている。排泄面でも、複数の利用者が職員2名体制でトイレでの排泄を継続しており、利用者の尊厳を守りながら、排泄状態の維持、改善につなげる取り組みが行われている。食事面についても、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応を行う取り組みが行われている。また、ホームで共用型デイサービスが行われていることもあり、利用者に関する情報交換等、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等、外部の方との新たな交流の機会にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域の特性を活かしたサービスを提供し、いきいきとした家庭的な雰囲気暮らしやすい地域社会をめざし全職員が理念を共有していくよう努める。	基本理念を支援の基本に考えながら、職員の入社時に理念の説明を行う等、理念の共有につなげる取り組みが行われている。地域の中で、利用者と家族に安心して過ごしてもらうことを目指した内容となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で希薄になっている地域の方々と認知症の理解を深める事ができるよう努める	感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が困難な状況が続いているが、ホームは地域の自治会に入り、回覧板等を通じて情報交換等が行われている。例年は、職場体験の受け入れ等が行われている。	地域の方との交流が困難な状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を含め他の地域の施設との交流が行えるよう努力する		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を含め他の地域の施設との交流が行えるよう努力する	会議については、感染症の状況をみながら実施の判断を行い、今年度は2回、会議の開催が行われている。地域の方や家族の参加が得られており、ホームの現状を知ってもらい、情報交換等の機会につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護の利用者様も入所されている為、名古屋市との担当者と連携を築いている	生活保護の方が生活していることで、市担当部署との情報交換等の取り組みが行われている。また、デイサービスを含めた利用者に関する情報等、地域包括支援センターとの情報交換等の機会にもつながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束行為の禁止は勉強会を通じて認識し、さらに意識を高める取り組みをしている	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者も外に出ることができることで、職員間で利用者の見守りが行われている。また、身体拘束に関する定期的な委員会や職員研修を実施し、職員の振り返りの機会につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会を実施して正しい知識を共有し周知徹底に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員が学ぶ機会の中々つくれていないが、管理者が利用者様の必要に応じて活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際に契約に関する事、要件などを説明し、納得して頂き、十分に理解して頂けるよう心がけしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様やご家族の話をよく理解し意見や要望を反映させている。	家族との交流が困難な状況が続いているが、介護計画の見直し時に意見等を書いてもらう働きかけを行い、家族からの要望等の把握につなげている。年4回のホーム便りの作成の他にも、随時の連絡も行われている。	ホームでブログによる情報発信の取り組みも行っているが、更新が止まっていることもあるため、今後に向けたホームの取り組みにも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議等で定期的に関き意見交換の場としている。また議事録で周知させている。	毎月の職員会議を行いながら、施設長でもある管理者が把握した職員からの意見等は、運営法人にも報告され、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、施設長による面談の機会もつくられており、職員の把握につなげる取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各自が向上心を持って働ける職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	働きながら技術・知識を身に付けて行くことを推進し、各研修に参加させ、資格の取得を積極的に進める。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍の為、交流が出来ない時期ですが、弊社の別事業所との交流を少しずつ進めていきたいと思っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	不安材料や困りごとを早く解消し利用者様との信頼関係を築き上げることに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 のぞん	生活歴や既往症など聞き取りを行い、問題点を明確にしつつご家族との信頼関係関係を築き上げることに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様やご家族が今一番求めている事や望んでいることを早く見極め支援するよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様のできることを把握できないことにそっと支援できるような関係を築き上げていくよう努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	一言通信を媒体に来設ができない状態でも利用者様の生活の様子がお伝えできるようにしてご家族様にご協力頂けるように支援する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族や友人、知人の方が気兼ねなく面会できるように努める	外部の方との交流が困難な状況が続いているが、利用者の中には、入居前からの関係を継続している方もおり、現状で可能な交流が行われている。家族の協力も得ながら、身内の方の葬儀に出かけた方もおり、馴染の方との関係継続の機会にもつながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の性格や個性を理解し上手にコミュニティが作れるよう支援する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご相談等の連絡があれば対応して支援できるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の利用者様との会話の中から本人の希望や意向の把握に努めている。	職員間でiPadも活用しながら利用者に関する意向等の把握が行われているが、利用者毎の申し送りも行われており、意向等の共有につなげている。また、随時のカンファレンスも行いながら、利用者や家族の意向等の検討も行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	実調表などを通じて本人の人生が把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人の利用者様が安楽にここで生活できるよう支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員にモニタリングした上でケアプランに反映させて現状に即したものになっている	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、モニタリングについても介護計画の見直しに合わせて実施している。また、日常的にも介護計画に合わせたチェック記録を残す工夫等、利用者の状態変化等の把握につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	iPadを導入しいろいろなデータの”見える化”を可能にし実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	デイサービスの利用者との交流などで柔軟なサービス支援を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍なので地域自体の活動もなくなっている中、災害時には支援を頂けるよう活動している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人の状態をかかりつけ医と事業所が共有し適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医による訪問診療が行われており、現状、全員の方が協力医をかかりつけ医としており、職員による受診支援が行われており、他科受診にも職員による対応が行われている。また、訪問看護と連携した医療面での支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の状態の変化に気づき訪看に報告し適切な看護を受けられるよう努めている またかかりつけ医を含め三者で情報の共有を計っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーが常備されており緊急時は素早く利用者の情報が一元的に伝えられるよう準備されている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	延命処置等の判断をある程度すぐにはできるようご家族様と日頃より話し合えるよう支援している	身体状態の重い方も生活を継続しており、職員間で検討しながら可能な支援が行われている。看取り支援については、体制的に困難な状況でもあり、利用者の段階に合わせた医療機関への入院等、次の生活場所への移行支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	知識としてマニュアルはあるが実践としては管理者の指示が必要になると思う		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害名簿を提出し地域の方の援助を自治会長や民生委員の方をお願いしている	年2回の避難訓練を実施しており、夜間想定訓練も今後実施していく方針でもある。通報装置の確認等も行われており、職員間の連携等につなげている。また、備蓄品については、見直しを行いながら入れ替えている状況でもある。	近隣の方との情報交換を行う中で、ホームとの新たな関係にもつながっている。非常災害時も含めた、ホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩として利用者を尊重し信頼関係できるよう対応している また個人情報の管理にも注力している	職員による利用者への声かけや対応等について、管理者からの注意喚起等も行われており、職員の振り返りの機会につなげている。また、職員間で支援が困難な利用者に関する検討を行いながら、利用者の尊重につなげる取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	安心・安楽な生活が送れるような環境づくりを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	各々の利用者が本人のペースで日々を安楽に暮らせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外部の方から見られても恥ずかしくない身だしなみや服装になるよう心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の好き嫌いや量の増減に対応し各々にあった食事を提供するよう心がけている	食材業者のメニューに基づきながら調理が行われており、季節等にも合わせた食事作りも行われている。身体状態の重い方が多いこともあり、利用者の参加が困難な状況でもある。利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養管理士に管理されたメニューを提供し利用者の嚥下に対応した食事形態にして提供し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアはなかなかできていないのが現状です。訪問歯科のケアに頼っているのが現状です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄のリズムを把握し、トイレで排泄ができるよう一人一人の能力に応じた排泄支援ができるよう努めている。	利用者の排泄記録を残し、申し送り等を通じて職員間で情報を共有し、一人ひとりに合わせた支援が行われている。複数の方が職員2名での支援で排泄を行っており、可能な限り、トイレでの排泄を継続している。看護師との排泄面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	医療や看護と連携し情報を共有し便秘にならないよう予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	いつでも入浴はできないが入浴によるメリットは清潔を保つだけでなく皮膚疾患の発見など多くあり積極的な支援に努めている。	ホームでは、週2回の入浴を基本に考えながら支援が行われているが、職員体制の問題もあり、難しい状況でもある。2人体制で入浴の支援を行う等、可能な限り、浴槽に入ってもらい取り組みが行われている。	職員が受診支援を行っている等、入浴に対応できる職員が十分に確保できていない状況であるが、可能な範囲でも、入浴の機会が増えることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日々、日常の安心・安楽な生活が一人一人のペースで送れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療と連携し少しでも服薬量が減らせるよう情報を共有し実践に向け支援に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者と職員がこの場所で一緒に生活する一員として互いに寄り添っていけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍ということで積極的には活動されていないのが現状ですが庭に出たり敷地内外の雰囲気を楽しむことができるよう支援している。	感染症問題が続いていることや現状の職員体制もあり、利用者の外出の機会が限られた範囲となっており、現状、医療機関への受診を通じた外出が主な外出となっている。例年は、近隣にある図書館やスーパーへ出かける支援が行われている。	利用者の外出の機会が限られた範囲となっていることもあるため、家族との外出の機会をつくる等、今後の状況もみながら、利用者の外出の機会を増えることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	移動パン屋が来設されて自分の好みのパン屋バナナなどを購入して代金を支払って頂く事を定期的に行えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は職員立ち合いで自由に使用できるようになっているがあまり利用されていません。”一言通信”で利用者の様子をご家族様に定期的にお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	木目をベースにした落ち着いた色調で広さも十分あり、居心地よく過ごせる空間になっている	ホーム内は広い空間が確保されており、全体的に開放的な雰囲気がつくられていることで、日常生活の中で利用者が閉塞感を感じないような生活環境がつけられている。リビングに畳コーナーがあり、利用者の中には寛いでいる方もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間は一人一人が思い思いのペースで過ごせるような空間や居場所を確保できています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの品を居室に用意し、今までと変わらない生活ができるよう支援に努める	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類や好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室内にベッドが備え付けとなっており、現状、全員の方がベッドで生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの場所の表示や車いすがすれ違えるような十分なスペースが確保され安楽に日々を暮らせるようになっている。		